



ECO₂ プランふじいでら
藤井寺市地球温暖化対策推進実行計画

平成 16 年度実績報告
(2004 年度)

平成 17 年 6 月
藤 井 寺 市

目 次

1 . 全体.....	1
(1) 総排出量.....	1
(2) 目標に対する進捗状況.....	2
(3) 発生源別の状況.....	2
(4) 項目ごとの経年変化.....	3
2 . 施設分類別排出量.....	4
3 . 公用車の走行距離及び燃料使用量.....	5

ECO₂ (エコツー) プランふじいでら藤井寺市地球温暖化対策推進実行計画の計画期間 4 年目にあたる 2004 年度 (平成 16 年度) における温室効果ガス排出量を集計した。

また、各課室・施設での取り組み状況を合わせてとりまとめた。

対象期間：2004 年 (平成 16 年) 4 月～2005 年 (平成 17 年) 3 月 (12 か月)

目 標：温室効果ガス排出量を 2005 年度 (平成 17 年度) において、1998 年度 (平成 10 年度) から 5%削減する。

1. 全体

(1) 総排出量

今年度の市全体における温室効果ガス排出量は、基準年度である 1998 年度 (平成 10 年度) と比較して、表 1-1 及び図 1-1 のとおり 0.3%増加している。

これは、個々の取り組みによる燃料や公用車の使用に伴う削減対策は進んでいるものの、事業活動に伴う活動量が増加していることや、冷暖房などによる電気使用量の増加が原因となっていると考えられ、目標達成には至らない結果となった。

表 1-1 全体排出量の年度比較

項目	総排出量 (t-CO ₂)	1998 年度を 基準とした割合	増減率
1998 年度	5,448.2		
2001 年度	4,944.4	90.8%	-9.2%
2001 年度 (推定)	5,408.9	99.3%	-0.7%
2002 年度	4,957.5	91.0%	-9.0%
2002 年度 (推定)	5,438.8	99.8%	-0.2%
2003 年度	5,319.8	97.6%	-2.4%
2004 年度	5,464.8	100.3%	0.3%

推定：市民総合会館が 1998 年度と同様に業務を行った場合の推定値

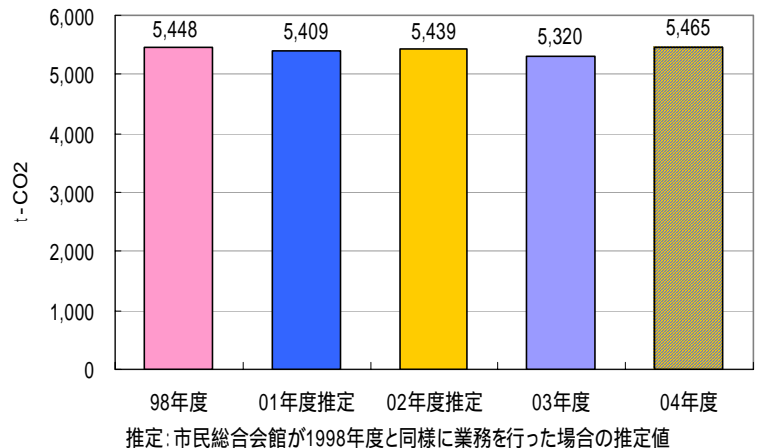


図 1-1 全体排出量の年度比較

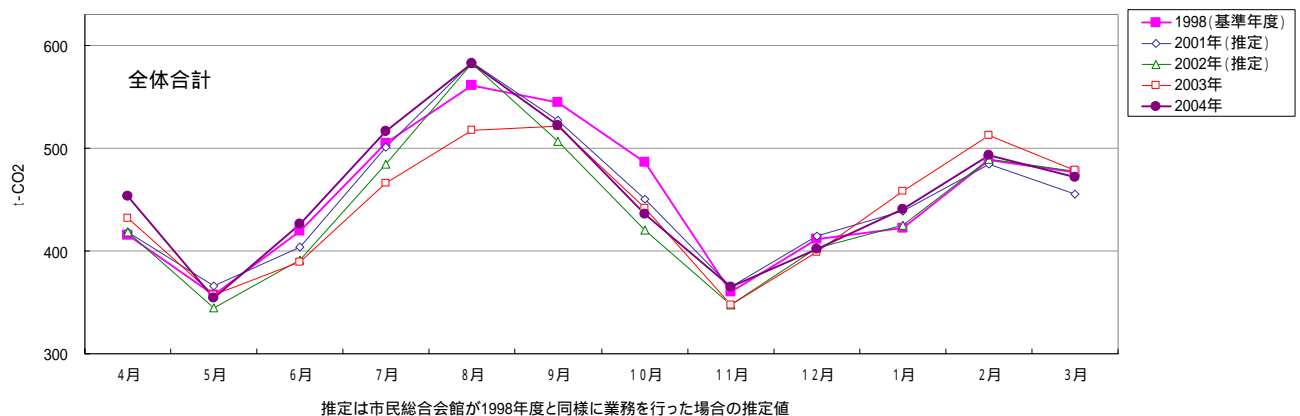


図 1-2 全体排出量の月別変動

(2)目標に対する進捗状況

エネルギー等の使用量削減に関する目標との比較は、表 1-2 のとおりである。

大きく減少している項目としては公用車用を除く燃料用ガソリンが 79.3%、灯油が 50.1%、軽油が 76.9%となっている。また、都市ガス、LPG、公用車の使用、水道使用量及び笑気ガスでも削減が進んでおり、平成 16 年度の時点では目標を達成している。増加した項目としては電気が 5.7%、A 重油が 31.5%、紙使用量が 6.9%となっている。

表 1-2 エネルギー等の使用量削減に関する目標に対する進捗状況

項目	平成 17 年度 (2005 年度) における目標	細項目	進捗状況 平成 16 年度 (2004 年度) 実績
電気	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		5.7%
都市ガス	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		-12.0%
A 重油	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 4 %削減する。		31.5%
その他燃料	極力削減に努める。	ガソリン	-79.3%
		灯油	-50.1%
		軽油	-76.9%
		LPG	-18.7%
公用車の使用	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 燃料使用量及び走行距離を 約 10%削減する。	ガソリン	-24.1%
		軽油	-24.7%
		走行距離	-23.0%
水道使用量	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。		-16.6%
紙使用量 (1)	平成 10 年度 (1998 年度) に対し、 約 5 %削減する。	H10 年比	6.9%
		H15 年比	-4.3%
笑気ガス (2)	極力削減に努める。		-6.7%

1) 紙使用量については、平成 15 年度より集計方法を変更したため、平成 10 年度との比較は参考値とする。なお、平成 15 年度に対する増減率は-4.3%であった。

2) 笑気ガス：市民病院で使用している麻酔薬のことである。

(3)発生源別の状況

温室効果ガス排出量は、図 1-3 に示すように、電気使用に係るものが大きな割合を占めている。このことから、温室効果ガスの削減には電気使用量の削減が重要であることがうかがえる。

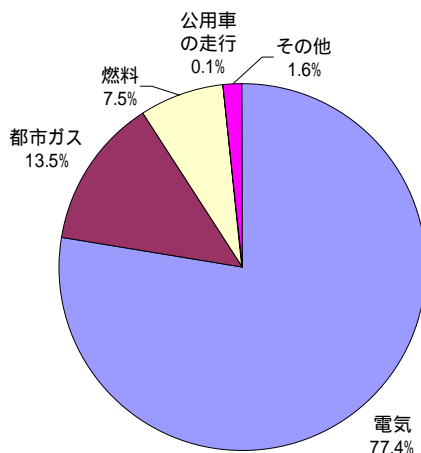


図 1-3 発生源別の温室効果ガス排出割合

(4)項目ごとの経年変化

エネルギー等の使用量の経年変化は、図 1-4 のとおりである。

電気は目標値を達成しておらず、使用量も基準年度より増加している。都市ガスは目標を達成している。A重油は、雨水ポンプ場の稼動頻度が高かったことから、使用量が大幅に増えた。公用車の走行距離、ガソリン及び軽油の使用量は基準年度と比較していずれも大きく減少しており、目標値を達成している。水道使用量は基準年度と比較して大きく減少しており、目標値を達成している。紙使用量は基準年度と比較して増加しており、目標を達成していない。

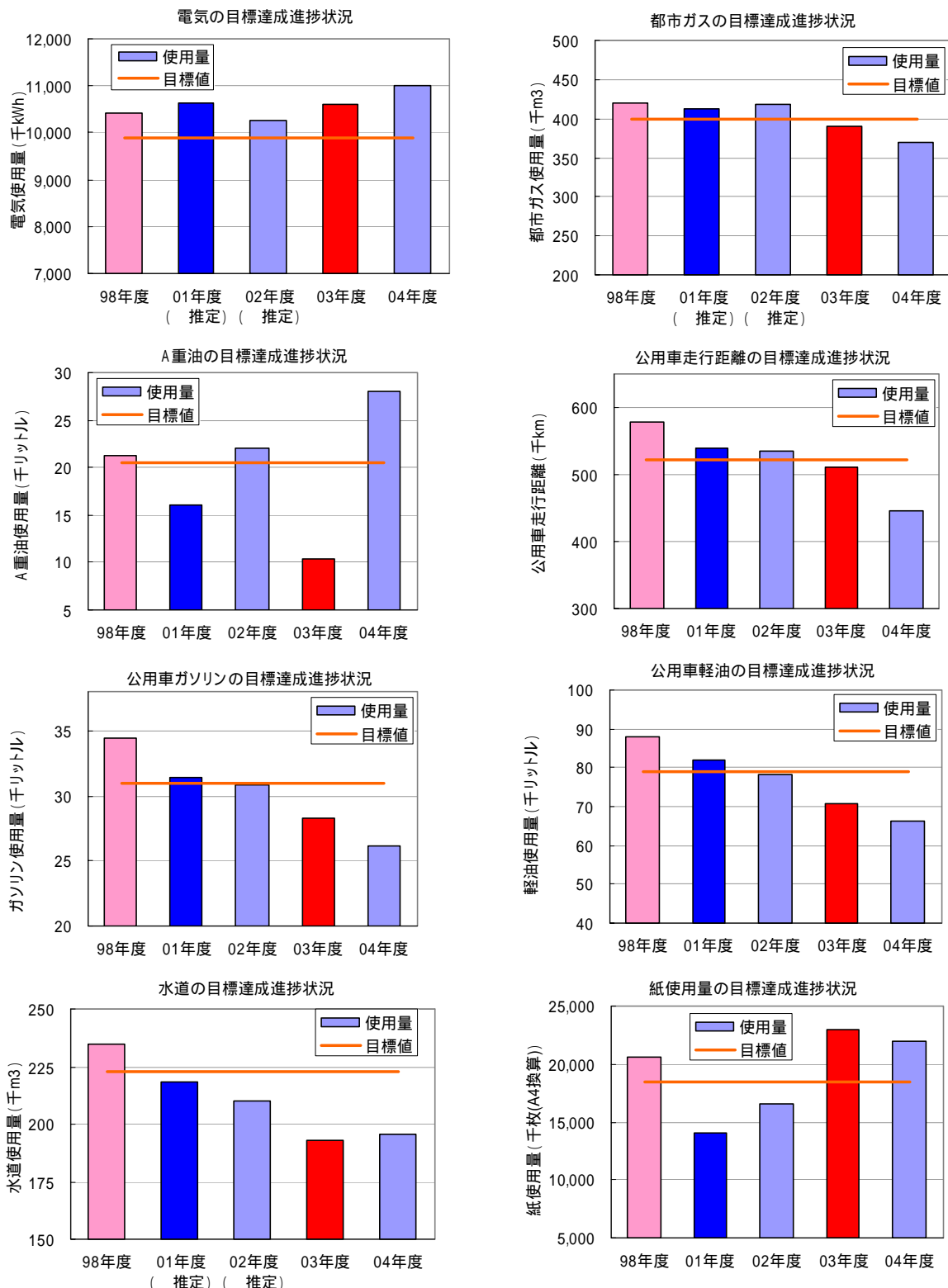


図 1-4 項目ごとの経年変化

2. 施設分類別排出量

温室効果ガス排出量を本庁、教育等施設、市民利用施設及びその他施設の4分類別で比較した場合の状況は以下のとおりである。

- ・ 本庁では基準年度と比較して、9.5%の減少となっており、目標は達成されている。
- ・ 教育等施設では基準年度と比較して4.1%の増加となっており、目標は達成されていない。
- ・ 市民利用施設では基準年度と比較して7.3%の減少となっており、目標は達成されている。
- ・ その他施設では基準年度と比較して10.0%の増加となっており、目標は達成されていない。

表 2-1 年間総排出量の年度比較

単位：t-CO₂

		電気	都市ガス	燃料	公用車の走行 (燃料以外)	その他()	合計
全体	2004	4,227.9	737.0	408.0	3.7	88.3	5,464.8
	2003	4,073.4	778.1	370.7	3.8	93.8	5,319.8
	2002	3,773.4	672.7	415.3	3.9	92.1	4,957.5
	2001	3,837.7	597.3	416.8	4.4	88.2	4,944.4
	1998	3,999.3	837.7	511.1	4.3	95.9	5,448.2
	増減率	5.7%	-12.0%	-20.2%	-14.0%	-7.9%	0.3%
本庁	2004	482.4	86.7	106.3	2.0	29.9	707.3
	2003	461.9	85.5	111.5	2.0	30.2	691.1
	2002	490.4	88.9	115.5	2.0	34.3	731.2
	2001	480.0	96.9	123.6	2.4	35.3	738.3
	1998	508.8	90.9	145.5	2.4	33.6	781.2
	増減率	-5.2%	-4.6%	-27.0%	-16.7%	-11.0%	-9.5%
教育等施設	2004	538.4	141.5	0.2	0.0	0.0	680.1
	2003	535.8	146.2	1.3	0.0	0.0	683.4
	2002	539.2	153.5	1.0	0.0	0.0	693.6
	2001	533.8	142.4	0.9	0.0	0.0	677.2
	1998	508.0	144.3	1.3	0.0	0.0	653.6
	増減率	6.0%	-2.0%	-84.4%			4.1%
市民利用施設	2004	1,228.7	483.7	49.7	0.2	47.6	1,810.0
	2003	1,240.6	523.2	40.6	0.2	53.8	1,858.4
	2002	1,069.6	406.7	52.7	0.2	47.0	1,576.3
	2001	981.9	335.3	45.9	0.2	40.9	1,404.3
	1998	1,258.6	580.8	63.8	0.2	49.6	1,952.9
	増減率	-2.4%	-16.7%	-22.0%	9.8%	-4.0%	-7.3%
その他施設	2004	1,978.4	25.0	251.8	1.5	10.8	2,267.5
	2003	1,835.1	23.5	246.1	1.8	10.8	1,956.5
	2002	1,674.3	23.5	246.1	1.8	10.8	1,956.5
	2001	1,842.0	22.6	246.3	1.8	12.0	2,124.7
	1998	1,723.9	21.7	300.5	1.7	12.7	2,060.5
	増減率	14.8%	15.5%	-16.2%	-12.6%	-15.1%	10.0%

その他は、カーエアコンのフロン漏出、笑気ガス

3. 公用車の走行距離及び燃料使用量

公用車については平成 14 年 4 月から実施している「藤井寺市地球にやさしい公用車推進計画～エコカープランふじいでら～」に基づき、公用車の台数削減とともに、更新時には低公害車を導入することを原則としている。

公用車による燃料使用量と走行距離の増減は、表 3-1 及び図 3-1 に示すとおりであり、基準年度と比較すると、ガソリンで約 8 千リットル、軽油で約 2 万 2 千リットルの削減となっている。走行距離はガソリン自動車、軽油自動車の合計で約 10 万 km の削減となっている。

表 3-1 公用車の燃料使用量と燃費の増減

項目	1998 年度		2001 年度		2002 年度		2003 年度		2004 年度	
	実績	実績	増減量	実績	増減量	実績	増減量	実績	増減量	
ガソリン	走行距離 (km)	257,173	233,183	-23,990	243,238	-13,935	236,247	-20,926	216,972	-40,201
	使用量 (リットル)	34,448	31,067	-3,381	30,928	-3,519	28,399	-6,049	26,192	-8,256
	km/リットル	7.47	7.51	0.04	7.86	0.40	8.32	0.85	8.28	0.82
軽油	走行距離 (km)	321,791	303,385	-18,406	293,481	-28,310	279,120	-42,671	260,430	-61,361
	使用量 (リットル)	87,922	82,053	-5,869	78,378	-9,544	70,638	-17,284	66,222	-21,700
	km/リットル	3.66	3.70	0.04	3.74	0.08	3.95	0.29	3.93	0.27
合計	走行距離 (km)	578,964	536,568	-42,396	536,719	-42,241	515,367	-63,591	477,402	-101,562

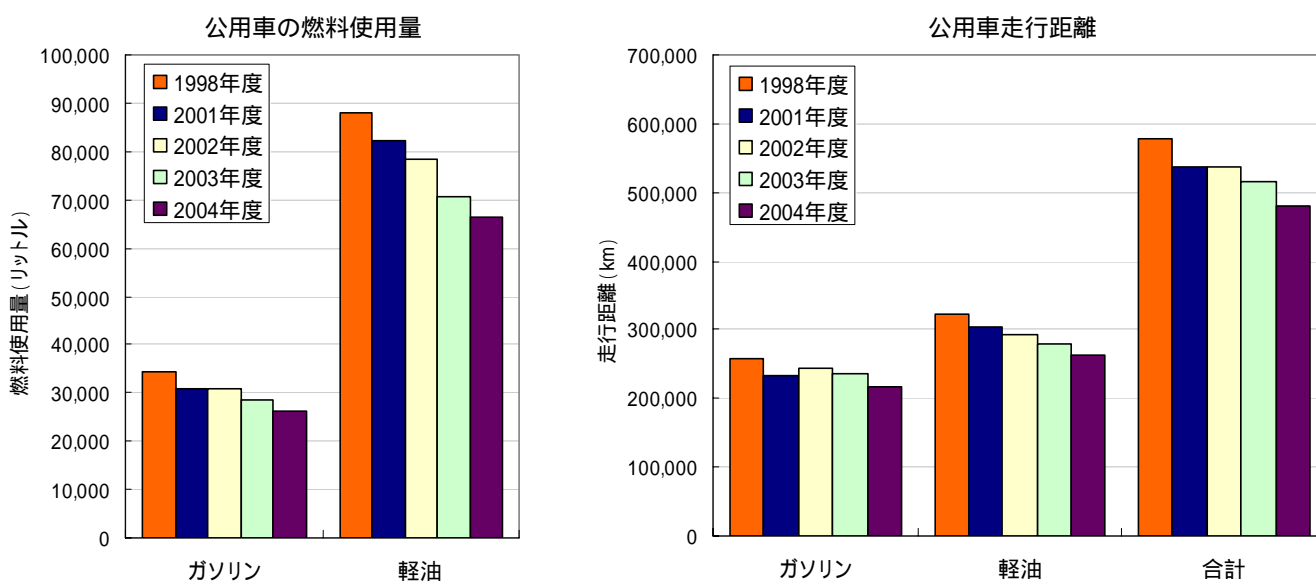


図 3-1 公用車の燃料使用量と走行距離の年度別推移